増補頭書
訓蒙圖彙大成
二

頭書増補訓蒙圖彙巻之一

天文

此部ハ日月星辰雨露霜雪のたぐひあつむ日月星辰ハ天の文章なれバ也易曰仰見於天文

両儀

天地開闢のはじめかろくして清るハのぼりて天となりおもくにごれるハくだりて地となる天を陽とし地を陰とす陽陰両儀といふなり

○七政とハ日月と五星と合せてのいふ又ハ七曜ともいふなり

日月五星天の政をなすとなり

木星を歳星といひ火星を熒惑といひ土星を鎮星と云金星を太白といひ水星を辰星

両儀

日

月

木星

火星

土星

金星

水星

といふ木火土金水の五行乃
星めぐりて陰陽をなし歳
となる此五星を五緯といふ
○太極ハ天地いまださだまらず
陰陽いまだわかれず渾沌たる
事鶏子のごとく溟涬て牙
をふくめるをいふ鴻毛の未判
といふ其清陽なるものハ薄
靡て天となり重濁なるものハ淹
滞て地となりしハおそく天
地開闢して其間に万物生ず
開闢以前を太極といひ天地
陰陽わかれしを両儀といふ
○國常立尊ハ天地既にわかれ
て其中に物ありて葦牙

大極

倭國

國常立

のぼりし則化して神となる
これを國常立尊といふ人の
始なり日本を芦原國といふも
此義なりを是より天神七代地
神五代あひつぎて人の代と
なり唐にては天地開闢し
て盤古氏といふ是人の
始なりこれより三皇五帝三王
とつゞきて人の代となる
○倭は日本を倭と号る事天
地開闢の後は地は皆山にして平
なし人の代となりて山をひら
き平地となして住しより
日本を山跡といふ義となりて
倭國といふなり

唐土 もろこし

盤古氏

○秋津洲といへハ人皇のはじめを神武皇帝と申奉る即位三十一年四月帝諸國に幸有しは日本乃地秋蜻蛉に似るをもつて秋津洲と名づけ玉ふ

○そも日本國ハ唐中華の地より東にあたるゆへに日東とはも扶桑國ともいふ又須彌山の南にあたるゆへに南贍部

北
東
西
秋津洲
嶋
小人嶋
えぞがしま
松前
松嶋
能登
佐渡
わとま
出羽
陸奥
加賀
越中
越前
飛騨
上野
下野
越後
常陸
若狭
美濃
甲斐
武藏
下総
信濃
山城
近江
尾張
駿河
相模
上総
三河
遠江
伊豆
伊勢
河内
大和
伊賀
安房
日本六十四州
外ニ二州
いとま
志摩
紀伊
大嶋
三宅
八丈嶋
女護嶋

別ちもつて用明天皇のとき五畿七道にさだめ給ふ文武天皇の御代に六十六ヶ國にわかちて諸國に守護をおく東武に将軍ありて諸國を守護せしめ西京中國に天子の都をさだめ給ふすべて田地の数凡九十四万七千八百一町米高貳千貳百八万五千四百八十貳石なりとぞ

日本國 又 倭國

朝鮮國
對馬
隱岐
きさい
壹岐
大嶋
長門
石見
出雲
伯耆
因幡
但馬
丹後
丹波
美作
播磨
備後
備中
備前
安藝
周防
攝津
豊前
筑前
筑後
豊後
上関
八嶋
伊豫
讃岐
淡路
和泉
阿波
土佐
肥前
肥後
日向
大隅
薩摩
平戸
五嶋
琉球國
西

○日ハ陽の精なり空虚にしてかたどりをしよつて鳥をもつて日の形とも陽鳥ともいへり三足をもつハ陽数のこゝろなり

○月ハ陰の精なり空虚にしてかたどりをしよつて兎をもつて月の形とす兎ハ陰の獣なるゆへなり白兎陰の色なり

○北辰ハ北極ともいふ天の樞なり一周天のめぐる事此北辰を樞となしてめぐるなり北に位して諸の星こと〳〵くむかふ是北辰の座に七星あり四星あり

○列宿此星天の東西南北に位して四方各七星づゝなり合て二十八宿なり是を二十日にめぐりて毎日うつりかはるなり

○晦毎月大の月ハ三十日小の月ハ二十九日を晦といふ月地下にかくれて光なしよつて晦の字をくらしとよむなり昏晦暗晦のあるなり

○朔ハ蘇なるをよみがへるとよむ月ハ十五日より晦日までにかけつきて又朔日よりよみがへりてきざし明ハ生ずるといふ義にて朔といふ

○弦ハ上十五日を上弦といひ下十五日を下弦といふ上弦ハ西の方下弦ハ東の方なり上弦ハ七日八日九日下弦ハ廿二日廿三日廿四日にあつて月乃半をかくなり

○望ハ十五日の事なり十五日ハ日月東西にあひ望むゆへに望といふ又もち月ともいふなり日

晦 つごもり

日

弦 げん ゆみはり

下弦

上弦

日出

日入

朔 ついたち

日

望 もちづき

日

月に對して月の光地の方に向て天にあらはし故に満月なるを

○日蝕ハ日月天にありて日ハ上なると月ハ下なり朔日ハ日月の會なり日月上下にありて道を同して會をなせハ地より見るときハ日ハ月のうらにかくるゝ是を日蝕といふなり

○月蝕ハ月ハもと光なし日ノ光をうけて明らかなりの日月道を同しておなしく地ハ月のあとにありて日の光地にて遮る月蝕を

○星ハ陽精なり陽精日となる日のあまりて星となる故に日生とかきて星とよむ

○斗ハ北斗なり七星なり一二三四を魁とし五六七を杓として搖光ハ

日蝕 にっしょく

月

月蝕 げっしょく

地影

地

日

星 せい かし

日月星を三光とす

斗

樞

璇

璣

權

玉衡

開陽

搖光

輔星

参 からすき星

かしのひかりを芒といふ流星をよばいぼしといふ

破軍星なり輔星ハそへぼしなり
○参星ハ西方七宿の一なり俗に是をからすきぼしといふ也星の列座からすきに似たり
○昴星ハ西方の一宿なり旋頭星ともいふ俗にすばる星といふ是かり星の列座間せまくあつまりたるなり
○牽牛ハ星の名なり俗にひこぼしともいふ又河鼓星ともいふ七月七日織女牽牛に嫁すと桂陽の武丁といふ仙人がいひしより七夕といふ事始まり
○織女ハ星の名なり たなばたなり
七月七夕瓜菓を庭上にならべ五色の糸を竹竿に掛て祭ることといのる(?)に三年の内にかなふ人ありと也是を乞巧(?)

織女 たなばた
天漢 あまのがは
牽牛 ひこぼし
彗 はうきぼし
孛 はいせい
昴 すばる

巧奠とも七夕まつりとも云
○天漢ハ天河とも銀河ともいふ七夕
に烏鵲翼をのべて橋とし此河を渡し
牽牛織女の二星あひ合とかや
○孛星ハ妖星なり此星出る時ハ
旧きをのぞいて新に改る又ハ大災あり
たゞの瑞あり俗に是を御光星と云
○彗星ハ妖星なり色青ハ王侯死
赤ハ強國おごる白ハ兵乱おこる天下
に災あるゝしるしあらはるゝ星なり
○太白星ハ金星なりあかぼしとな
づく俗にあかつきの明星といふ白日にさ
きだちて出る也啓明とも云
○虚空ハそらともおほぞらともいふを
よむ太虚太空ともいふ天なり天ハ
圓にして空々として物なくかたち
なしゆへに虚空となづく

○霧ハ陰陽のみだれより生ず
地氣のぼつて天氣應ぜざるハ
霧といふ天氣くだつて地氣應ぜ
ざるハ雺といふ風吹て土ふる
をも霾といふ

○煙ハ火の於る氣なり烟同し
又水よりも煙いづる

○長庚ハ金星なり日に先だち
て入是を長庚星といふ俗に是
をよひの明星といふなり

○風ハ大塊の噫氣なり陽の為
にして散じて陰の用となる故に
風吹ときハ土必ぶく又旋風飄
風ハつじかぜ

○露ハ夜氣露となる陰の液也
白虎通に露ハ霜の始なりとも
又り露をそぐよふ涼といへるど

長庚 ゆふづく

入日

風 かぜのうた

露

○雲は山川の氣なり地氣のぼりて雲となり天氣くだりて雨となるなり雲は陰の躰なり升く陽の用となるのみ雨湿の氣なり

○雨は水蒸て雲となりくだりて雨となる也しきりなるを暴雨といひながあめを霖雨といひゆふだちは驟雨といひ時雨を澍といふ

○雷は陰陽あひ激する声なり王充論衡といふ書に雷の形は人の力士のやうにて纍々たる連鼓を左に持右の手に椎をもつてうちて声をなすとなり

○電は二月に有この月陽氣衝きんとして陰氣とうつその激するひかりを電といふ俗にいなびかりといふ又電といふ雷神と電母といふ

○暈ハ日月乃めぐりの氣
なりてまとふ日暈あるとき
ハひでりし月暈あるときハ
三日のうちに雨ふるといへり
○雪ハ雨ありて雪となる天地
乃積陰あつくなるときハ雨と
なりさむきときハ雪となる
花となるを雪といひ圓なるを
と霰といへ又銀花とも六出
花とも銀屑ともいふ
○氷ハ陰氣のあつまるところ
もとげかゝれハむをかまへく
氷となる氷と書ハあやまり也
氷と書べし氷つめたきて凌と
いへ氷さんなる故凍といへ冰
かたくて凘といへ冰とくるを泮
といへ氷室ハひむろなり

暈 えん かさ

雪 せつ ゆき

氷 ひよう こほり

○虹ハ日雨と交て質をなすもの也
日のひかり雨にうつるゆへなり虹
あらはる朝にハ西にあり暮にハ
東にあり色鮮なるを雄とし
闇と雌とす俗に蛇のいきといふ
螮蝀 霓宮ともふにしあり
○雹ハ雪こほりて圓なるもの
雹といふハ寒氣つよきときハ雪と
なりて輕し寒氣うすきときハ
雪おもくしてちりやすし又雹とも
瓊瑤 玉粒 碎玉 銀米 明珠
同し雪雨にまじりふるを霰
といふ
○雪氷寒にむすぼれて軒
のきにさがりて氷柱となる
氷筋 氷條とも書べし又氷箸
ともいへるなり

虹 にじ

雹 あられ

氷柱 つらら

頭書増補訓蒙圖彙巻之二

地理

此部ハ山川田園林丘村市のたぐひなり地乃條理なり易云俯察於地理

○山ハ高大にして石あるなり又ハ廣雅云山ハ産なりよく万物を産するなり說文云山は宣なり

○峯ハ山の端なり山太にして高き峯といふ山ふにしくたかきを岑といへとりふる○かるを唐にハ香爐峯日本にてハ冨士峰などの嶺同

○巓ハ高山のいたゞきなり絶頂なり詩經に采苓采苓首陽之巓といふ山巓とも云

山（やま）

巓（いたゞき）

峯（みね）

坂（さか）

高巓ともいふ

○坂ハ陂坂なり山中の高ゝくけハしき所なり小坂を嶝といふ磴同し

○嶽ハけはしき高山をいふ山城如意嶽近江の比良の嶽なとなり

○谷ハ両山の中の流水なるを渓谿同し水谿にそゝくを谷といふ山の間に水ある所を澗といふなかれとゝまる

○丘ハ土の高き所をいふ又四方たかくして中央ひろくして丘といふ又とゝめり阜同狐死をるに丘を枕とす

○盤ハ大石なり盤石ともいふ俗ニ大盤石といふハ重言

かるべし
○巖はいはほなりさゞれ石の
のいはほとなりてとよめるなり
石室を巖といふ石のむろど
みしてたかくそびえたるをいふ
詩経に維石巖々とあり
岩同
○崖は山邊なり山の一片に
そばだちのぞきたるをいふ厓
同じく懸崖ともいへりけはし
補俗にがけといふなり
○瀑は瀧とも書なりたかきを
おつる水白くして布を曝が如
くなるによりて瀑布ともいふ
日本にても布引のたきといふ
又もろこしには盧山に有
ぞうにあり又瀑は飛泉

巖 いはほ

瀑 たき

崖 がけ

ともいふ

○桟ハ柵あり閣かけたる所閣なく道となる所桟道とも閣道ともいふけんその山坂[補]石きざみて通れざる所へ橋をかけて道としかよふをいふ

○洞ハ深通なると洞といふてあなありて道と通ずるをも仙洞ハ仙人のすむ洞なり峒同し山に岩穴ありて袖に似るを岫といふなるあり

○麓ハ山足なり林山につづくと麓といふ麓ハ鹿のあるところなるゆへに字鹿に从なり鹿ハこのんで林にあるがゆへなり

○林ハ平地にて叢木あるを林といふ野外を林と云樹林松林竹林

桟 かけはし

洞 ほら

麓 ろく ふもと

林ハおほくの木のあつまりたるを
いふ故林といひ草のあつまりたるを
いふを薄といふ薄ハくさむらなり叢同
○岬ハ山乃かたハらの海
かたへつき出たる所なり又
越前に金岬などいふ所あり
○村ハ人のあつまりゐる所也
村落といふ本ハ邨につくる字
通ず経史に村の字なし邨ハ
邑に从ひ屯に从ふ別に村につく
るハ非なれど今通じ用ゆる◎
邑同し
○川ハ穿なり地を穿てなが
るゝの心にて川となづく又
河とも書なり[補]大なるを大
河といひ小なるを小川といふ
なり[補]江ハ急なり

岬 みさき

村 むら

林 はやし

川 かは

○洲ハ水中の居つべき所なり人鳥などのあつまり息所也小洲を渚といふなぎさなり水渚石あつまる磧といふいそなり水沙上にながるゝを瀬といふ湍同磯いそなり
○波ハ風水とうつて紋をなすを波といふ水波ハ水紋なり又浪瀾とかふ同し大波を濤といふ又連ハさゞ波なり又濤を潮頭といふなり
○渦ハ水めぐるなり水めぐるごとく巴の字なりといふ又泡漚沫ハあわなり
○島ハ海中に山ありてよるべきを島といふ隝嶋嶼みなしまなり同ト蓬莱方丈瀛洲と海

洲

渦

波

中れ三島といふ
○海ハ晦なりと荒遠にして冥
昧なる意なり又海ハ穢とかけ
て其水黒して晦のごとしとも
いへり湖ハみづうみなり潮ハうし
ほなり
○岸ハ水涯の高きをいふ又
径のはたきしによる浪よるところや
とよむ又岸の峨崕をがけにあり
○濱ハ水際なり涯ハかぎり濱ハ
ほとりなりびんも同じ水際の平
沙を汀といふみぎハとよむなり
海濱ひろきを瀉といふかたなり
河濱水濱海濱そのほか猶此
○田ハ土を耕の名口ハ田の四方
のかきなり中に十の字ハ田の
阡陌とてみぞのことなり畎

海 うみ
島 しま
濱 ひん はま
岸 がん きし

人丁半 畂 田畑

○畔ハ田の界なりくろとも又あぜともいふなり又塍埒同周の國にハ耕ものの畔を讓といふあり

○溝ハ田間の水なり溝ハ構なりたてよこにはしりてながるゝなり

渠同

○獨梁ハ獨木梁ともいふなり又杌橋ともいふ丸木の一本橋なりといふ

○塚ハ平なる所墓といふ土を封ずる所塚といふ又をかを高きを墳といふともふつかなり塚のうへにまつ又ハ木をうゆる事なり

○場ハ五穀をおさむる圃なり

畔 くろ あぜ

田 でん た

獨梁 どくりやう ひとつばし

塚 ちよう つか

溝 こう みぞ

土を築を壇といひ地を除を
場といふ神をまつる所なりを
あり農人の禾穀をこなす所を
場といふ又かりにかこふ
市場賣場などいふ又場とも
かくなど
○井は伯益といふ人つくりそむ
めるなり鴆は毒鳥なり羽井
の内におちて人その水をのめば
死をまぬかる井のほとりに桐を
うゑ鴆は鳳凰を懼る鳳凰は梧
桐にとまりの霊は鳳のゐ
んことを鴆に懼るなり
○韓は井垣なりとある俗に
いげたといふ井筒と書
なり韓のほとりに竹を
うゑたり鳳凰竹の實を

井幹

場

ふりのなきハ鵜となぞらへぐさなり

○澤ハ水のあつまりて聚ところなり澤にハ杜若河骨蓴さいかなく螢とびかふ夏の夕暮の景色もおもしろし

○石ハ山の骨なり塊久しくして石となる石変じて金銀銅鉄と生ず星おちて石となる本石に怪あり石より火を生ず

○礫ハ小石なりさゞれいしともみつぶてともよむなりその石礫にまろく瑠璃の蟠ところろびあるをといふなり

○沙ハ細散の石なり別に砂とかくいさごまりなりと説文に水少ふあさき水がかれて沙あらはる

の義なり繊沙ハはまごなり
はまごいさごもまご同訓なり
○池ハ地をうがつて水を溜る
をいふ沼も同じ四角なる
池を方池といふ
○泉ハ源水なり下より漏
出るハ温泉といふ垂いづるを
沃泉といふ穴より出るを氿
泉といふ病を治するハ温泉
といふぞゆかり地下ハ黄泉
といふ
○塘ハ池塘なる池のかとり
つゝみなり俗にためいけと
いふ柳をうへたるハ柳塘
といふ柳塘莫々暗ニ啼ニ鴉ヲ
詩にもはくあり
○園ハ菓をうゆる所なり又島

池 いけ

泉 いづみ

塘 つゝみ

けだものをやしなふ所ハ苑
といひ垣あるをハ園といへど
ともにそのと訓ず 補 園ハ今俗
にハとせどもおなじ
○圃ハ菜をうゆる所なりこれ
又果瓜をうゆるを圃といふを
もいふてみえたけあり我不
如老圃と孔子ものたまへる
論語にみえたり
○閭ハ里門なり今いふ在所
の惣門なり又家二十五軒
ほどある在所を閭といふ又閭
巷といふ
○郊外を野といふなり野ハ
ひろくして平なる所をいふ
高くして平なるを原といふ
ともにあはせて野原といふ

園 その

圃 はたけ その

閭 さと

埜同し野と書はあやまりと
○道は道路なり途同し
徑はこみちなり
用明天皇のとき五畿七道に
わかつ文武天皇のとき六十六
箇國とする
○畷は田の間のみちなりなは
てなり俗に繩手と書繩を
引ごとく直けれはなり
○衢は四達の道なりよつつく
十字街といふちまたなり俗
に辻の字を書てつじと讀
街衢洞達とあり
○城は黃帝作りそめしとも
いふとも又鯀といふ人つく
はじめつくるといふ內を城と
いひ外を郭といふ天守狹間

野

畷

道

衢

多門　武者屯　櫓　犬走
虎魚

○塹は城をめぐる水ありて又坑塹なる坑壕ありびに同城郭のかりなり

○封疆は土を封じて疆をかぎるなり俗にこれを土手といふ洛陽にむかし大閤秀吉公のきれし東西南北に封疆をつきて竹をうへしもの今にあり

○橋はむかし禹王といふ聖人つくりはじめ玉へり梁とも書なり矼はいしばしなり圯はつちはしなり板橋はいたはしなり石橋はいしばしなり土橋はつちはしなり歩橋はふなはしなり

○市は神農はじめ玉へり

又祝融をいちのかみともいふ
賣買の所を市といふ 補 今
俗に色紙店といふ魚のいち
呉服ざやなどいふあり
○津は水の會どころありて舟
つきよるところなり 難波津
大津 今津 甲斐津など
いふさだめなり伯はとまりせ
○浮橋はうきはし又浮梁と
も書べし又ふなばし舟をつ
なぎならべてうへをあゆむ
水うへして橋のかはりとなる
あゆむをわたるなり
○堤はふせぐるとぞこれの
土をきづく水ふせぐため
ぞうかはむかはりて堤を
いふ堤とかくはあし 塘堤同

柳ハ[補]堤に柳を植るをいふ
○閘ハ水門なり俗にいふ所
樋乃口とて田に水を入るゝ
ハ引あけ入ざるときハおろすを
○堰ハ蛇籠に石をつめて水を
ふさくものなり又埭とも書也
水邊に田地又ハ屋敷のきハ堰
をとむるなり[補]俵に土砂を入て水
ふせぎともいふなり
○水柵ハ竹木をあんでこしらへ
る水よけなるところにも
山川に風のふけるときハ
なかれものゝぬけみちあり
とよめるなりしがらみといふも
水柵なり
○關ハゆきゝのうたかハし
き人をとゞめ改る所なり

堤
閘
堰
水柵

不破の関 鈴鹿関 逢坂関
これを天下の三関といふ今ハ
なくなりし 箱根の関などいふ
あるハ其外関所あり
補 峠ハ山坂とのぼりおりく
だるところなれバあるひハ山中
の峠鈴鹿の峠などいふ山道の
往来するハ峠といくつもある事
なりと
補 森ハ木の多く生ぜるところ
なる所といふ狐の森蛍の森を
又鷺の森などいふ所あり
○牧ハ六畜をやしなふ所ハ
いふ又郊外を牧といふ言ハ六
畜をかうち牧をべき所なり
国の守護を牧といふも民
をやしなふの義によつ

○塋ハ墓の字と意ゆそ
あつくほふむる事なり子孫の
先祖と思墓をまもり塚も
同し天子の御陵といふ
塋同し壙つかあな也
【補】沼ハ池の大なるものをいふ
又水ふかく泥土あるものなり池
澤沼ハ同しさハひなるを云山
城國伏見に大沼あり葦芦
など多くありて水鳥の住所也
【補】藪ハ竹林なり若竹淡竹の
二種を用ひて其性よくろく
藪とかして造作又ハ器財に用
ゆる事かぎりなし

頭書増補訓蒙圖彙巻之三

居處

此部には宮殿門戸壁牆庭窓乃たぐひとぞて家居宅所につきての文字あり

○殿ハ堂の高くして大なるをいふ天子の居所ハ取て殿といふ殿乃天井に藻をゑがくるハ藻ハ水草なれバ火災をさくるこゝろなり

○棟ハ屋極なり屋脊と甍とこれらをいふいらかなり鴟尾ハくつかたしゑ蚩吻ともいふべし

○檐ハ簷廡宇同し遶檐點滴如琴筑と詩にもつくれり又檐のあやめ檐の玉水などゝ歌によめるなり

○楹は殿門の東方にあるをいひて東楹といふ柱同じ短柱なりつかばしらなるを
○欄杆は階除の木句欄なり闌干とも書なり干は檻に作るあり しはあり直欄横杆
○階は砌なり堂に昇る道也階級階除階擽ともいふ俗にきざはしといふ堦ふつくるはあやまりなり
○搏風は風板搏ともよむ也とさるゐの名なり◎是を懸魚といふ魚は水に縁ぞのなきは火災をさくるの名也
○蔀は屋の簷ふつりあげて光明をさし入るものなり俗ふうへもとといふつまで

草にもやり戸ハ蔀の同よ
つまもありしとみ蔀ハうも
あるもあり
○礎ハ柱の下なる石なり詩と
此るハ韻字なるゆゑ礎と云
礫礩并に同し
○庭ハ門屏の内を庭と云
又砌といふも庭なり
○門ハ両戸あるを多く門と云
楣閫振みな門にあり
○廊ハ殿下の外屋なりと
ありさうぢの方云廊下廻
廊などあり本殿へかよふ
ひさしなり
○牆ハ墻垣墉並ミ同又門
屏を蕭墻と云蕭ハ言ハ
粛なり君臣ハあひまみゆる

宮
華表
瑞籬

乃孔ハ門屏にいたりて粛敬とくいふなり
○扉ハ木にて作るを扉といふ竹にてつくるを扇といふ門扉戸扉柴扉竹扉などといふ
○磚ハしきがハらなり又甎瓦ともいふ又壁磚ともいふ塼甎並同禅堂などに有
○砌ハ階甃なりいしだたミ俗にいしだんと通じて庭ま事なるを
○宮ハ唐にてハ至尊の居所と宮といひ和朝にてハ神の居まします所を宮といふ又社とも祠ともいふなり
○華表ハ神前にたつる鳥井なるをとりゐといふ事ハ神

楼
櫺
宅

門なきとりゐハ天の字なれど
ちがひあるゆへ鳥井と名づくる
華表とさるのとまり乃
名なるを
○瑞籬ハ神前社前のかき也
玉垣ともいふ不浄の人あしき
ものゝ内へ入ざらしめ
○楼ハ重屋なり高くかまへ
上て物見するところなり今俗
にちんといふ
○櫺ハ隔子なり櫺子なり俗
にしといふ木のまどは櫺子
といふ土のまどは土窓といふ
○雪打ハ佛殿楼閣又ハ二階
などにあるなり雨雪などの
打かゝらぬやうにするものなり俗
にゆきよけといふなり

厨 くりや

窖 あなぐら

○宅ハ擇なりよき所を擇
でいゑをたつるゆへなり又
人の詑とる所といへ義もあ
舎家屋とのふ同又ハ第宅
○厨ハ烹飪をる所なり今云
料理所なり又庵厨との略
あくるをもいへ補俗に名付て
臺所といへり
○窖ハ地藏なり丸と實へと云
方なる々窖といへをもふある
ぐらなり地をかりく穴とに
らへ家財を入置所なり
○寺ハもと官人の居る所乃
名なり天竺より佛經を白
馬にのせく鴻臚寺といふ
官人の居所へおさめしより佛氏
の居所の名とす

寺
塔
亭

○塔ハもろこしの長安に慈恩寺といふ寺あり塔あり鴈塔といふ進士名をその下に題す 塔婆 浮圖同

○亭ハ道路乃舎にあり又行旅宿會の館とゞまるところなりそもいへり俗にひとやどりまたよろづやあり高く立てる樓をも亭といへ

○屋ハ舎なり大屋と廈屋とのみまやともいふ家の真中を下や屋といふ四方面の家と四阿屋といふ俗に小屋とや孫といふ

○廬ハ田の中の屋なり稲などをさめ入るためあり草ふくなりとうたる屋といふ菴同ゆうれの廬のといふた廬の字

と書なり

○厠ハ圊なり溷なり俗にこれを
雪隠といひ古ハ清といひ又不
浄と清除とまつくの名なり
釋名に雑なるを人をのるへに
雑厠となるなり

○坊ハ邑里乃名ちまくなり
町なり京二条通を銅駝坊と
いふがごとし又ハ別屋を坊と
いへ僧坊寺坊などなり

○店ハ物をひさく所なりなる
かるを茶店酒店などいふなるを
と店屋物なとくもいへ肆廛
鋪同じ心なり

○槅子ハ格子とも書なり組
入槅子狐槅子釣槅子臺槅
子なとあり禁裏又ハ寺社など

にあるハ狐格子なるを
○倉ハ五穀を入るを倉といふ
米をおさむるを廩といふ財宝を
いるゝを蔵といふ書物を入るを
庫といふ上庫ハぬりごめなる
府もくらなり
○齋ハ潔なり心を洗ひ齋ると
いふ学文所といふ又燕居の室
なり学文をする人齋号ハ
付るといふ我学文所の号をつく
るなり
○廡ハ堂下の周廊なり大屋
の四邊の重檐なり
○窻ハ釋名に窻ハ聰なり
内より外をうかゞひてみるゆく
聰となるとの義なり牕牖並
に同し　紙窻　紗窻

齋
廡
窻
戸
尾
蟆股

○戸ハ一枚とびらの門と戸
といふ又門と戸とハ外と門
とハうちをいへり民家ならび
にしもの又ハ編戸といふ
○尾ハ唐夏の昆吾といふ人つ
くり始しなりのちに甍といふ
おろしの又ハ鴟尾といふ又魏の文帝
尾とらく鴛鴦となるを変
じあるといふ故事ありよりて
鴛鴦瓦といふ
○蟆股ハ搏風の下にあり蟆
の股に似たるゆへなり蟆ハ水中に
住むものなれバ火災をさくる
なり鴨居といふも同意や
○臥房ハ寝室ともいふ又閨
房ともいふ天子の御寝所を
夜殿といふ

○楗ハ限門木なり今のくわんのきなり扊門並ニ同
○扃ハ外より閉る関なり又門扉のうへの鐶鈕なり又関戸の木なりくわんの木又ハ鎖之
○鋪首ハ今按ずるニ門又ハ襖障子などのひきて鐶なり鈕ハつまみなり
○壁ハ城のかべと塁とつゞきたるを粉壁といふハ畫壁板壁などあるも室の屏蔽なり
○廳ハ政をきく所なり撿非違使の所なり公事訴訟をとりさばくる所なり
斤同
○廐ハ馬舎なり猿の異名を馬父といふによりて廐ニ猿
廳
廐
牢獄
ひとや
柵

とかく祈禱なとのとき
廐の上ニ馬をつなく木を猿
木といへ
○牢獄ハ罪人を囚ところなり
皐陶といふ人つくりそめたまへ
なり周の代にハ囹圄といへ今
籠と書ハあやまりなり
○柵ハ木をあらて是をつくる事
障にて人馬をふせぐものなり
篇同し俗ニ駒よせとも馬ふ
せぎともいふ
○閨ハ婦人の寝やなる東坡
が月の夜故郷の妻をおもふ乃
詩にも閨中唯獨看と作れり
○浴室ハ沐浴して身をきよむ
る處なり俗ニ湯殿といへ禪
寺にハ風呂屋を浴室と額を

閨

浴室

籬

○籬はませともいふ竹にてくめるかきなり藩笆とも同
陶淵明が詩に采菊東籬下悠然對南山
○樞はくるゝなり言行は君子の樞機なりといへり又北極を天の樞なりともいふ又門樞戸樞扉樞などいふ
○驛は道中のしゆくや馬つぎなり又驛館とも又驛舎とも驛傳ともいふ
○護摩堂は護摩は梵語なりて焚焼と翻譯をなりきび護摩といふは重言なり護摩を修る護摩をるなといふべしとぞ
○臺は四方にしてたかきものを

臺といふハ臺上に屋を架する
をいふ臺門といふ又樓臺 舞
臺歌臺もあり
○櫓ハやぐらなり城上の望
樓なり狭間をあけて敵の
多少をうかゞひのぞき弓鉄
炮をいるを云なり又戦棚と
もいふなり
○棧敷ハ見物の棚なり棧
敷ハかりそめにかまへて
へらど棧敷をまうくるといふ
なしとぞ
○蹴鞠坪といふハ鞠蹴場也
四本がゝりとて四隅に松竹
櫻楓をうゆるなり鞠ハかろ
こし蚩尤がかうべをかたどり
てける事なり

臺 うてな

櫓 やぐら

棧敷

蹴鞠坪

○輪藏ハ一切經を入置藏也
轉やうにしつらへたるゆへにまた
輪藏とも轉藏とも經藏とも
もつて一度轉藏とまはせバ一
切經を轉讀するの道理あり
前に居るハ傅大士といふ人なり
佛在世一切經を守護せし人
○護朽ハ今いふ擬宝珠なり
橋又ハ高欄にあり
○栟ハ臂木と俗ニ書雲ども
とり付るゆへ雲臂木とも
曲栟と拱とも欒ともいふ枓
とのものなり
○枓ハ柱の上乃四角なる拱
斗なり方枓 拱枓 栟枓
ともいふ又ハ欂櫨ともいふ
○桁ハ屋の檣木なり又足なせ

輪藏

護朽

頸をは衎といふ事もあり
又夜類をかうは夜衎といふ
翡翠鳴夜衎と杜子美が詩に
作れり
○榱ハ椽なるをいふ秦乃
世には椽といひ周の世にハ榱と
いふ齊の世にハこれを桷といふ
○藻井ハ天井なり藻をゑがく
によりて藻井といふ藻といひ
井といふもみな火災をふせぐところ
なり天井と書も此意なり
みな水の縁をとる
○窯ハ瓦竈なりかはらやくかま
かまと窯同志のものなれどもこれは
らを入柴にくべてやくなり
炭やくかまも此かまどなり